

■始めてご覧になる方に★プロローグ(第1作から第4作までのタイジェスト)つき

■第1作より実に6年!

地球の未来を予言した驚異のエンドレス・ドラマ
いまその全貌を明かす完結篇の登場!

ロディ・マクドウォール
ナタリー・トランター
クロード・エキンス
ルー・エアーズ
ポール・ウィリアムス
ジョン・ヒューストン
監督 J・リリー・シンクソン
製作 アーサー・ロビンソン
撮影 リチャード・ハクライン
音楽 ジョージ・ロビンソン
特撮 ジョージ・ロビンソン
メイクアップ ショーン・キャンバス

カラー作品
バナビジョン

最後の猿の惑星



BATTLE FOR THE PLANET OF THE APES

■ スタッフ ■

製作.....アーサー・P・ジェイコブス
監督.....J・リー・トンブソン
ストーリー.....ポール・デーン
脚色.....ジョン・ウィリアムス・コリントン
".....ジョイス・フーパー・コリントン
音楽.....レナード・ローゼンマン
撮影監督.....リチャード・H・クライン
美術監督.....デール・ヘネシー
メイクアップ.....ジョン・チェンバース

■ キャスト ■

シーザー.....ロディ・マクドウォール
アルド.....クロード・エキンズ
リーサ.....ナタリー・トランディ
コルプ.....セバーン・ダーデン
マンデマス.....ルー・エアーズ
バージル.....ポール・ウィリアムス
マクドナルド.....オースチン・ストーカー
アルマ.....フランス・ニュイエン
立法者役として特別出演.....ジョン・ヒュースト



● シリーズ完結！

一九六八年に、第一作『猿の惑星』で登場したこのシリーズが、ついに五作目を数え、ここに完結する。近年最高に面白いSF映画であるだけでなく、『007』と共に最もヒットしたシリーズ物の、これは戦慄と恐怖の大きなクライマックスなのだ。

● これはスタートでもある

このクライマックスは、しかし普通のしめくりではまわらない。なぜなら、この第五作の続き、つまり第六作目はもうないのであるからである。この六作目が、実はシリーズの出発した第一作なのであり、だから七作目は第二作。という具合に、これは永遠にまわり続けるのである。このシリーズは、映画史上かつてないユニークなものなのである。そして、このシリーズが本当にこわいのは、ここにある。

● 人類滅亡！

おぼえているだろうか。第一作『猿の惑星』で、地球から到着した主人公チャールトン・ヘストンが、実はそれが未来の地球であるとも知らずさまよった奇怪な世界を……：この第五作は、あの奇怪な世界にすべてが帰って行くのである。地球はここで、人間対猿の原水爆戦争の結果、ついに一瞬にしてほとんど壊滅してしまったのである。

● いかにも第一作につなげるのか？

だから、この第五作の、なんといつても興味深いのは、物語をいかにして第一作につなげてゆくかという事だ。オリジナル・ストーリーは、第二・三・四作のシナリオを書いたポール・デーン。一九五一年に『戦慄の七日間』というサスペンス未来映画で、アカデミー・オリジナル・ストーリー賞をとっている人。最近では何といつても『007/ゴールドフィンガー』、『寒い国から帰ったスパイ』のシナリオで有名である。脚色は、これもSF物『オメガマン』を書いているジョン・ウィリアムスと、ジョイス・フーパーのハリウッド夫妻。そして監督は第四作と同じJ・リー・トンブソン。いうまでもなく、最高に面白い映画『ナパロンの要塞』を作った男である。第五作を第一作につなげるという、SFの離れ技のスタッフとしては、まず最適のメンバーなのだ。

● エイブ・シティー

この『猿の惑星』シリーズの最大の呼び物といえば、ア

カデミー賞をとったジョン・チェンバース創造の、見事な猿人間メイクアップ。ところで、この猿たちは、第一作ではオランウータン、チンパンジー、ゴリラという三階級に分かれていた事をおぼえているだろうか。政治を受けもつオランウータン族、文化的なチンパンジー族、戦闘的なゴリラ族。こんどの第五作は、この三種族の誕生の謎が描き出されるのである。森の中に作られた猿の町、エイブ・シティー。このドラマである。

● ニューヨーク地下都市

第二作『続・猿の惑星』では、原水爆で破壊されたニューヨークの廃墟の地下で、猿人間の攻撃におびえながらひそかに暮らしている人間たちの子孫が登場した。知能は発達しテレビパシーをあやつりながらも、放射能におかされ見ても痛ましい奇形の彼らの生存の謎。これも又、こんどの第五作ではじめて解明される。第四作にも登場した警察署長コルプをリーダーとするケロイド人間（ミュータント）たちの、悲惨な地下のドラマである。

● 猿を演技する

キャストは、例によって演技派でがっちりかためられている。第四作で人間たちに反乱を開始した主人公シーザーには、引き続きロディ・マクドウォール。その妻リーサに、これも第四作で同じ役を演じたナタリー・トランディ。ゴリラ族のリーダーに、『リオ・ブラボール』の敵役で名を売ったクロード・エキンズ。オランウータンには映画監督として第一級でもあるジョン・ヒューストン、そして『愛のプレリユード』『オールド・ファッシュヨン・ラブ・ソング』のコンポーザー、シンガー・ソング・ライターとして人気抜群のポール・ウィリアムスの映画出演。『西部戦線異常なし』のルー・エアーズ、久しぶりの出演も興味深い。他にフランス・ニュイエン、セバイン・ダーデン、オースチン・ストーカー等が登場する。

● 残酷と恐怖のエンドレス・ドラマ！

『猿の惑星』シリーズは、SFのあらゆるテーマの大集合体でもある。宇宙テーマ（第一作、時間テーマ（全作）、未来社会テーマ（第四作）、ミュータント・テーマ（全作）、破壊テーマ（第二作）、ロスト・ワールド・テーマ（第一作）といった具合に、SFのあらゆる面白さがふんだんにちりばめられたシリーズなのだ。こんどの第五作は、当然その総決算。永遠にぐるぐるまわり続ける、怪奇と独創的な恐怖ドラマが、ここにはじまり、ここに終るのだ！

7月21日(金)からロードショー 特別鑑賞券発売中

丸の内東宝
(211)6088